



ritokei

2024-2025

認定NPO法人離島経済新聞社 2024年度年次報告書

島の宝を未来につなぐ

 離島経済新聞社

リトケイは認定NPOになりました

2025年2月4日、離島経済新聞社は公益性の高い事業活動と運営体制が所轄庁に認められ「認定NPO」を取得しました。これにより、リトケイがお預かりするご寄付・会費は最大50%が税控除の対象となりました。

島の変化は蝶の羽音のように 世界をかえる力がある

蝶の羽ばたきのように小さな動きが、やがて世界を動かす大きな力になることを意味する「バタフライエフェクト」。人口わずかな島には社会変化が起きやすい特徴があり、隠岐諸島の海士町にある島の学校からはじまった「学校魅力化プロジェクト」が日本中に広がったように、「島を良くしよう」という動きから世界が変わる好例はまだ増えていく。リトケイはそう信じています。

島の学びと、島への想いを 『ritokey』でつなぎ続けたい！

島には可能性がある一方、急激な人口減少により学校がなくなる島や、絶え間なく打ち寄せる海洋ごみと戦う島など、さまざまな課題を抱えています。『ritokey』は島の課題を可能性にかえ、島から島国を豊かにかえたい。そのために、島を想い、島を支えるシマビトを増やせるよう、もっと、もっと記事を増やしたいと考えています。

つよく、たのしく、あたたかい 島の営みは現代の希望

『ritokey』は「島に学ぶメディア」として、島で生きる人々の想いや取り組みを日本中から集め、届け続けてきました。新聞版は累計1,000ページ以上となり、紙面に集まった金言をより多くの人へ届けられるよう、書籍『世界が変わるシマ思考-離島に学ぶ、生きるすべ』を発行。人口減・高齢化・地球沸騰化が進む時代に見つめ直すべき重要な視点として、注目を集めています。



「認定NPO法人」とは？

所轄庁が一定の基準を満たしたと認定したNPO法人のことを指し、NPO法人の活動を支援し、寄付を促すことを目的とした税制上の優遇措置が設けられています。個人からの寄付は所得控除又は税額控除のいずれかを選択し、確定申告を行うことで最大約40～50%が控除されます（お住まいの市町村によって異なります）。また、法人からの寄付は、一般寄付金の損金算入限度額とは別に、特定公益増進法人に対する寄付金の額と合わせて、特別損金算入限度額の範囲内で損金算入が認められます。

寄付・会費が増えるほど 離島経済もうるおう仕組みに

編集部には日々たくさんの情報が寄せられますが、限られた制作費では拾いきれない状況にありました。この度の認定NPO取得は大きな追い風です。『ritokei』を生み出す寄付金は、最大50%が税控除として寄付者に戻り、50～80%が島の現地スタッフの報酬や滞在費等として島に循環できる仕組みが整ったのです。

サポーターには
毎号3部が届きます！

最大50%が戻ってくるご寄付・会費で 島とリトケイを応援いただけませんか？

会員の皆さまにはリトケイの活動報告もかねたフリーペーパー『季刊ritokei』を毎号3部お届けするほか、創刊号から現在までのすべてのバックナンバー（1,200ページ以上）をオンライン上で閲覧できるIDを発行いたします。



サポーター会員になる
(年払い)



サポーター会員になる
(月払い)



単発寄付をする

毎月5,000円（年間6万円）をお預けいただいた場合、確定申告で最大3万円が戻ります。

リトケイ寄付



専用口座への直接応援も大歓迎です

「がんばれ！」「応援している！」「あの記事参考になったよ！」という応援の気持ちが大きな力になります。どうかお力添えください。

振込先口座

ゆうちょ銀行（記号番号：00190-4-767568）
〇一九店（019）当座0767568
トクヒ）リトウケイザイシンブンシャ

※ 口座へ直接入金いただいた方で税控除に必要な領収書が必要な方は【住所・氏名・連絡先】をリトケイまで必ずご一報ください。

メール：npo@ritokei.com / 電話：050-3528-8392（平日 10時～17時）



代表者よりお礼状
をお届けいたします

QUESTION

改めて問うQ. どうして島なのか？

A. 日本列島の豊かさを守る カギが離島にあるから

1万4,000を超える島でできた日本には
北海道・本州・四国・九州・沖縄本島という大きな5島と
400島余りの有人離島があります。

有人離島の人口は、数人から5万人程度。
都市に比べれば、ひとも、ものも、ことも、情報も、お金も
すべてがあふれるほどありません。

島にあふれているのは、雄大な自然環境と
地球の一部として生きる人々のすべ。
「足を知る」環境のなかで、人と人が支え合うシマを形成し
心豊かに生きれるコミュニティを自ら創造する力が、離島に残っています。

解剖学者の養老孟司さん『ritokey』のインタビューにこう答えました。
「万事手近なもので間に合わせること」「地域で自立していくこと」
「都市生活者は、部分的にでも地域に住むことを実行しなければいけない」

認定NPO法人離島経済新聞社は、島と世界をつなぐ中間支援組織として
島と島国の豊かさを守るカギを、社会に届け、広げます。



「持続可能な社会を求めるためにはまだまだ知恵を出さないといけないことが、たくさんあるということです。一人で考えていても駄目なので、やはりコミュニティが必要。島であればまとまってできるでしょう。日本ぐらいの規模になると人が多くて考えるのも大変ですよ。世界中が都市化したことに対して、自然が残っていることが島の価値だと言うだけではなく、考えを逆転しましょう。島みたいところで生きるのが人間の本当で、都市は変だということです」

(『未来がかわるシマ思考』収録 養老孟司氏インタビューより)

養老孟司

DIFFICULT PROBLEM

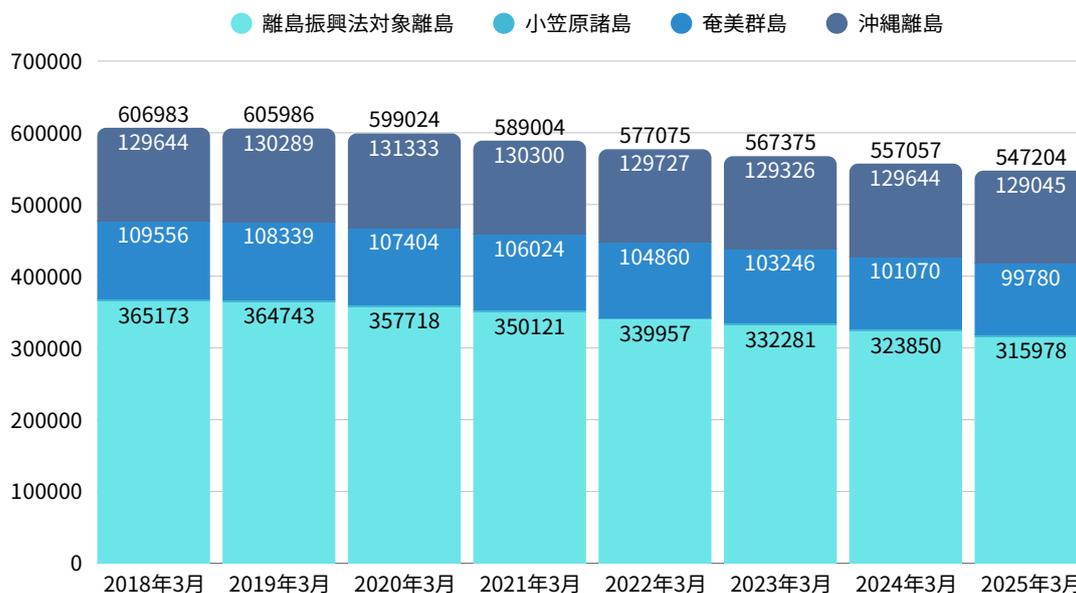
日本が抱える難題

2024年の出生数は過去最低。少子高齢化と急激な人口減少、それに伴う労働力不足と経済の活力低下、孤独・孤立・貧困、頻発・激甚化する自然災害、都市一極集中と地方の過疎化、気候変動、資源・エネルギー、インフラの老朽化と維持管理、農村漁村の疲弊による食料自給率の低下、安全保障問題など多くの難題を抱えています。

有人離島が抱える難題

世界6位の広さを誇る「日本の海」の50%は有人離島の文化的営みによって守られています。しかし、島々では年間1万人が減少。深刻な人不足から船員不足等による航路減便、学校や病院などの重要インフラ縮小により、豊かな暮らしの維持に大きな課題を抱えています。

417島の有人離島のうち法指定離島306島の人口変動



※住民基本台帳をもとに離島経済新聞社が独自に算出

「有人離島」と「日本」の難題に対し 離島経済新聞社が挑戦する志事

島の可能性を
社会に届ける
普及啓発事業



豊かな
つながりを提供
連携交流事業



島と島国の
可能性をひらく
魅力化促進事業



もしもに
備える防災と
国土強靱化支援

なぜ民間NPOが必要なのか？

日本の有人離島は大きく5つの法律に分けられ振興されています。また行政区によっては、本土地域とのバランスにより離島振興が優先されにくい事情を抱える地域もあります。これらが網の目となり、公的支援が届きづらい島や、法律や行政区を越えた連携が行いづらい状況があることから、柔軟に活動ができる民間NPOが必要なのです。

図3 とうしょ
日本の島嶼構成



2024年4月～2025年3月の活動報告（ダイジェスト）

- 4月 東京都利島村より地域活性化企業人を受託（継続事業）。教育魅力化支援スタート
「未来のシマ共創会議」プロジェクト始動（継続事業）
- 5月 『世界がかわるシマ思考-離島に学ぶ、生きるすべ』（issue+design）発売
『季刊ritokei』45号「2050年に向かい島と私たちはどう生きるか」特集を発行
利尻町ふるさとSDGs事業にて「うみやまかわ新聞」制作を開始（2015年より継続）
「新しい贈与論」より87万円のご寄付を受領
- 6月 プロボノチーム「うみねこ組」の募集
- 8月 『季刊ritokei』46号「なつかしくてあたらしいミライの島を共につくろう」特集発行
国土交通省スマートアイランドシンポジウムに登壇
『朝日新聞』フロントランナーに掲載activity
- 9月 2024年度 社会情報学会（SSI）学会大会に登壇
- 10月 屋久島教育ビジョンを語るステークホルダーミーティングに参加
フィロソフィ経営実践塾横浜と連携し「離島オンライン会員」募集開始
- 11月 「未来のシマ共創会議2024」初開催／「アイランダー2024」にブース出展
甕島にて「シマ育モニターツアー」を実施
- 12月 東京観光財団主催「補助金活用セミナー」を企画運営
『季刊ritokei』47号「逢いたい島人」特集を発行
一般社団法人日本社会連帯機構20周年記念フォーラムの基調講演に登壇
答志島にて「シマ育モニターツアー」を実施
- 1月 フィロソフィ経営実践塾横浜にて「離島オンライン会員」スタート
福山市「島の未来を語ろう」にて講演およびパネルディスカッションを担当
『日経Kids+ 2025 大人の探究心が育てる子どもの知的な好奇心』インタビュー掲載
- 2月 沖縄「ミチシルベ2025」にてモデレーターを担当
鹿児島離島経済圏主催「アイランドゼブラカンファレンス」に登壇
『季刊ritokei』48号「八方よしのシマづくり」特集発行
活動実績とガバナンスが認められ「認定NPO法人」取得
今治市「今治のDIYを考える日」に登壇
- 3月 クラウドファンディング「シマビット大学をつくりたい」にて229名より347万円の支援を受領
サンフロンティア不動産より100万円のご寄付を受領
阪神百貨店梅田本店催事「奄美群島ワンダートリップ」をスーパープレゼンターとして支援
「離島医療会議」開催（海士町 風と土と、アンター株式会社と共同運営）
鹿児島離島文化経済圏発行「ビジョンマップ」を制作





リトケイで「豊かさ」を見つけた人の声

「リトケイさんの取り組みのおかげで、島と島とが繋がりました。共創の実現。今後の益々のご活躍を応援しております」

「みんなが楽しくWin-Winになるのをあきらめない、その取り組みがとっても素敵で、わたしもソーシャルワーカーとして見習いたいと思っています！これからも楽しみに見せていただきます！」

「こちらのメディアと島の人々とであえたことで、自然への向き合い方、子どもや人との関わり方を深く考えるきっかけになりました！これからも魅力的な発信を楽しみに、引き続き応援しています！」

「訪れたことのない多くの離島のことを知り、そして訪ねてみたい。離島には特別がたくさんある、住む人には普通であっても。きっと日本再発見、自分再発見にあふれることになる。楽しみにしています、季刊誌が届くこと」

「昨年の共創会議に参加してから「シマ思考」に強く共感するようになりました。地域づくりの活動を進める上で大変参考にさせていただきます」

「鹿児島県の奄美大島の加計呂麻でユースホステルをしています。刻々と寂しくなっていく状況ですが、こんな離島を励ましてくれるフリーペーパーを見つけて心強く感じました。有難うございます」

「日本は島国です。ヤポネシアの精神、良さ、そして時には過酷な歴史など、忘れてはいけなし、伝えていかなくてはいけないと思っていましたが何もできていませんでした。実際に活動していただいている貴社に感謝です」

「現在の様々な社会課題は、規模に任せて社会を工場のように有機的・複雑なものから無機的・単純なものに変えていったことに根源があると考えています。過密のうえに老朽化した都市部は、もはや住み難い場所です。一方離島は自然環境が残り、開発もなく、コミュニティが機能しています。離島が人材さえ得ることができれば、豊かな地域社会を復元することができると思っています。この依存集約型社会から自立分散型社会への転換せざるを得ない日本にとって、離島の成功モデルのエビデンスが、日本の社会修復の羅針盤になると確信しています」

事業にふれた関係人口の数

7,914 人

※ リトケイの2024年事業に参加・関連した関係人口の合計人数

リトケイが情報を届けた人数

約 50 万人

※ 2024年度発行のフリーペーパー、ウェブメディアやメルマガ等の購読者累計

わたしたちも応援しています！



株式会社日本総合研究所
主席研究員
藻谷浩介さん

お金では測れない価値があります

日本は島国です。なのに、世界の中でみればさほど大きくもない島である本州が、まるで自分は大陸にでもなったように、小さな島を見下していたりします。「効率が悪い」「採算が取れない」「無理して守る意味がない」と。でも、そう言っている人の人生は、「効率」が良くて「採算」が取れたのでしょうか？そもそも場所や人生の価値って、お金で測るもの？いやいや、あなたにも日本にも、そして島にも、お金では測れない価値があります。そのことを、自分で島に行って実感しませんか？



精神科医・鍼灸師
オープンダイアローグトレーナー
森川 すいめいさん

生きやすくなるためのヒントがシマに

目の前にいる人の尊厳を感じることができる。大自然と向き合いながら人と自然は協働する。自然から離れるとまたは大きな組織にいるとぼくたちは人の存在や自然の存在、ついには人の多様性を忘れてしまう。すると途端に生きにくい。そのことは頭では知っている、だけど心や身体は思い出してくれない。でも大丈夫、生きやすくなるためのヒントがシマにあるから。



奄美大島・NPO法人ディ！代表理事
あまみ エフエム放送局長
麓憲吾さん

島のウチとソト、島々の同志の架け橋に

島の外海離島というアウトラインがウチとソトという意識を生み、島の波風に心揺られ、リトケイに心交わり、想いが一つに重なります。いつもアリガッサマ。

リトケイの活動を支えてくださった人の数

2024年度のサポーター・寄付者数

島 法人 **30** 団体 個人 **290** 人 島

島 島 しま 島 島

皆さまのおかげで4号分・計6万部の『ritohei』をお届けできました



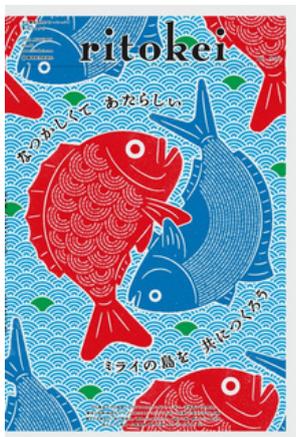
「八方よしのシマづくり」(2025年02月25日発行)

- ・海も、島も、人々も皆の笑顔を生み出す熱源 (対馬島・有限会社丸徳水産 犬東ゆかりさん)
- ・石田秀樹先生に聞く、八方よしを叶えるポイント (沖永良部島・石田秀樹さん)
- ・高校生と大人が連携する屋久島版の環境見本市 (屋久島・鹿児島県立屋久島高等学校の皆さん)
- ・旅する小さな工務店は持続可能な未来モデル (隠岐諸島・島田広之さん)
- ・海ごみから楽器をつくる利他の心が生んだチャレンジ (福江島・長崎県立五島高等学校 川脇颯太さん、近藤泰一郎さん)
- ・島々で育つ八方よしの種 (奄美大島・あまみん ほか)
- ・「駅伝のように島の営みを継いでいく」島祭-Shimasai-
- ・「島々仕事人」キルティ株式会社 Kilty BOOKS 国本真治さん



「逢いたい島人」(2024年12月07日発行)

- ・150年受け継がれる防災意識とキラキラと輝く誇りとあこがれ (相島少年消防クラブの皆さん)
- ・島を知ることは自分を知ること ラップや映画で届ける「忘れない」思い (与那国島 東盛あいかさん)
- ・高校魅力化プロジェクト高校魅力化から10数年 牛・カフェ・村議を担う島の家族 (知夫里島 川本息生さん・理子さん夫妻)
- ・Youはどうして島人に? この時代だからこそ島暮らしを選んださかえるさん (屋代島)
- ・すべての有人離島を巡り続けて半世紀 逢いたいマレビト 斎藤潤さん (全国の島 斎藤潤さん)
- ・「現実はどう? 島国を歩き、見聞きする」地域エコノミスト・藻谷浩介さん
- ・「島々仕事人」リファインホールディングスと屋久島の皆さん
- ・島Books & Culture | 映像でみつめる島々の一面
- ・島から島へ紹介したい島文化「島ならではの郷土料理」(全国の島 幸寿和さん)



「なつかしくてあたらしいミライの島を共につくろう」(8月27日発行)

- ・島から届いた4つのメールと、わくわくと (沖永良部島・石田秀樹さん、佐木島・少林泰誠さん、対馬市SDGs推進課・久保さん、請島 与路島・藤田誉亮さん)
- ・離島×新技術 島国をリードする新しいミライ (真鍋島・五島市、鳥羽離島・新居大島・飛島・五島列島、大崎上島・生野島)
- ・ポケマルが展開する親子地方留学 (株式会社雨風太陽)
- ・海士町の「余白」から価値を生み出す起業人材や企業パートナーを歓迎
- ・人口300人の離島で水産の未来をひらく地域おこし協力隊を募集 (利島村)
- ・農業でにぎわってきた沖永良部島で島暮らしと農業を体験「ふるさとワーホリ」(沖永良部島)
- ・「島で、芸術祭をやる理由」アートディレクター・北川フラムさん
- ・「島々仕事人」認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ



「2050年に向かい島と私たちはどう生きるか」(4月25日発行)

- ・『未来の年表』著者がみる島の未来 (作家・ジャーナリスト 河合雅司さん)
- ・社会増達成の五島市が向かう「2060年2万人」への道 (五島市長 野口市太郎さん)
- ・「変化」に応じる「シマ思考」(奄美大島大和村・島根県立隠岐島前高校・飛島)
- ・生き残れるシマ(共同体)とは (哲学者 内山節さん・海士町 阿部裕志さん・鯨本あつこ)
- ・「子どもたちが帰ってこれる島」をつくる島々の取り組み (松本一希)
- ・変化に対応するためにヒト・モノ・カネ・データを得る方法
- ・「シマという希望から世界はかわる」世界がかわるシマ思考制作委員会 (福江島・有川智子さん、甕島・山下賢太さん、小豆島・黒島慶子さん、鯨本あつこ)
- ・「島々仕事人」テクノラボ 林光邦さん・田所沙弓さん
- ・島から島へ紹介したい島文化 (新島 Hostel NABLA 梅田久美さん)
- ・島人コラム | 寒風沢島・走島・保戸島

ritokei

は島国の未来を担う
子どもたちの教育にも活用されています



東京・文京区の筑波大学附属高等学校は、全国に約80校あるNPOリトケイの刊行物を学びに活用する学校のひとつ。学校図書館には「島本」の棚があり『世界がかわるシマ思考-離島に学ぶ、生きるすべ』や『季刊ritokei』の全バックナンバーもずらり。地図コーナーにも国土地理院発行の日本地図とともにリトケイの「島の大きさ一覧ポスター」が掲示され、2024年には島についての学びを深める特別講座「シマから考える！日本の未来」も開催されました。



ritokei

WEB版や
SNSでも展開
約42万人に
届けられました

ritokei

は以下の編集方針のもと制作しています

- 1.シマ（人と人が支え合うコミュニティ）と人と地球の幸福を追求します
- 2.多様な価値観を尊重し、人々の心をつなぐ記事をつくります
- 3.規模・スピード・派手さに捉われず、小さくても大切な事柄に注目します
- 4.シマを大切に想う人の心に配慮し、丁寧に記事をつくります
- 5.特定の政治・宗教・偏見に偏らない中道を追求します
- 6.つよく、たのしく、あたたかい社会をつくるヒントを届けます
- 7.1本の記事に関わるすべてに感謝し、大切に記事をつくり届けます

ritokei は島のウチとソトの信頼をつないでいます



約170島含む全国1,300カ所の設置ポイントと
信頼ネットワークから届く唯一無二のメディアです
全国322市区町村 1,341カ所 ※島での設置数は168島

1

公式設置ポイント

「島を想う人」が存在する拠点からのお申し込み制にこだわり拡大した公式設置ポイントから毎号1.5万~2万部を配布



2

教材活用

島と島国の未来を担い手を育てる学校（約80校）へ積極的に配布。教材としての活用も！

3

信頼ネットワーク配布

2025年5月号よりサポーター会員による「おすそわけ配布」スタート！毎号届く「3部」のうち「2部」を興味関心の近い人へ手渡しいただきます。





世界がかわるシマ思考制作委員会・著
離島経済新聞社・編

2024年4月20日発売

200ページ／本体1,900円+税

issue+design発行／英治出版発売

じわじわと広がっています

世界がかわる シマ思考

離島に学ぶ、生きるすべ

島に学ぶべき7つのポイント

- 1 有機的な「シマ」の密集地
- 2 利他的生き残りの先進地域
- 3 「ない」から生まれる創造力と生きる力
- 4 誰一人とりのこせない世界
- 5 「足るを知る」が当たり前
- 6 自然と生きる豊かな感覚
- 7 課題も可能性もみえる「日本の縮図」

教育・医療・社会連帯etc...

さまざまな業界や人づくりの現場で「シマ思考」を採用



日経Kids+2025

「今、私たちにはシマ思考が必要だ！」

『日経Kids+ 2025 大人の探究心が育てる子どもの知的好奇心』では8ページに渡って特集。地域で支え合い、自然と共存して生きる知恵や工夫が詰まった「シマ思考」や、人や自然との関わりの中で子どもの人間力を養う「シマ育」に教育業界も注目。



「シマ思考をもとにこれからの
社会の自治と協同を考える」日本社会連帯機構

協同労働と社会連帯活動を結ぶ日本社会連帯機構20周年の節目にも、「シマ思考」で「これからの社会の自治と協同を考える」シンポジウムが行われ、『協同の発見』を通じて全会員に共有されました。



「シマには、プライマリ・ケアの未来の姿がある」
プライマリケア学会

シマ思考をきっかけに、『月刊総合診療』が「シマから学ぶ、プライマリ・ケアの未来 いざ、素晴らしい離島医療の世界へ」を特集。プライマリケア学会では、あらゆる地域、医療機関のプライマリ・ケア従事者が学べる視点として「シマ思考×医療」をテーマにしたシンポジウムが行われました。

未来のシマ 共創会議

2024 11.14(Thu)

「未来のシマ共創会議2024」を初開催！



初年度となった本年度は、具体的なイメージの広報が難しく、来場者数が目標に届かない状況となりましたが、参加者の満足度は高く、次年度開催の要望も多くなっただけのイベントとして幕を閉じることができました。



11月から2025年3月度までの期間中には、島内外の参加者間では実際に島で再会するなど、具体的なつながりが生まれ、出展団体の中には同イベントをきっかけに島～企業間で新たな事業連携が生まれたという報告もいただきました。



同イベントの強みは認定NPO法人離島経済新聞社が14年間かけて築いてきた関係性を土台とした、「丁寧なマッチングにより築くことのできる信頼関係」です。離島地域という信頼資本社会と、島外の経済社会や関係人口層とのつながりを強化するためには、一過性のイベントではなく、継続的な「島内外の信頼の架け橋」となるプラットフォームを構築する必要を強く感じております。2025年5月には「未来のシマ共創会議」をきっかけに誕生した「シマビト大学」も創立し、島・人・社会のつながりをより強力に支援して参ります。



未来のシマ共創会議2024 実施内容

事前勉強会

未来のシマ共創会議の 活用方法

NPOリトケイ 代表理事
統括編集長
鯨本あつこ



日本の島を知る（基本と制度）

NPOリトケイ 代表理事
統括編集長
鯨本あつこ



NPOリトケイ
魅力化推進担当
松本一希



島の課題と可能性× 資源の活用

沖縄・多良間島
多良間島観光
コーディネーター
波平雄翔



島の課題と可能性× 医療

令和のDr.コトー
手打診療所所長
室原善伶



対馬市
しまづくり推進部
SDGs推進課
久保伯人



離島医療会議
海士町 風と土と
阿部裕志



忽那諸島・中島
看護師・介護士
吉屋寿則



島の課題と可能性× 防災

奥尻島
奥尻町役場
干場洋介



三宅島地域体験工房
しまのね
平野奈都



徳之島
伊仙町社会教育課
町誌編集室室長
松岡由紀



島の課題と可能性× 企業との共創

飛島
合同会社とびしま
松本友哉



神集島ドローン隊
株式会社まちのわ
尾崎郁哉



離島引越し
アイランドクス
代表取締役
池田和法



島の課題と可能性× お金

Zebra and Company
共同創業者 / 代表取締役
田淵良敬



海士町（中ノ島）
AMAホールディングス
代表取締役 大野佳祐



甌島列島
東シナ海の小さな島
ブランド株式会社
代表取締役 山下賢太



島の課題と可能性× 必要なインフラ

一般社団法人
離島総合研究所
上田嘉通



NPO法人
男木島図書館 理事長
額賀順子



島の課題と可能性× 人手確保・関係人口

利島村役場
産業観光課長
荻野了さん



当日の学びを深めるための
事前勉強会をオンラインで
実施（限定公開Youtubeから
アーカイブ動画を配信）
リアル参加者：平均50名。
累計視聴者：800人

大和リース株式会社
民間活力研究所
辻大輔さん



島の課題と可能性× 子育て教育環境

与路島
藤田誉亮



請島
林和樹



屋久島
NPO法人HUB&LABO
Yakushima 代表理事
福元豪士



全国こども食堂支援
センター・むすびえ
ディレクター 森谷哲



ワークショップ

「人材不足を超える」「生きるための必要を確保する」「子育て層がやってくる！」をテーマに開催



トークセッション

理想の共創

シマから島国の可能性を拓く。産官学民の共創とネイチャーポジティブ

内山節（哲学者）
麓憲吾（奄美大島／あまみエフエム 放送局長）
波平雄翔（多良間島／多良間島観光コンシェルジュ）
【進行】鯨本あつこ



暮らし続けられるシマへ

足るを知り、在るものを活かす。これからのインフラづくり

井口勝文（建築家 INOPLAS 都市建築デザイン研究所主宰）
黒島慶子（小豆島／オリーブ&お醤油のソムリエール）
有川智子（五島列島・福江島／草草社 代表）
【進行】額賀順子（男木島／NPO法人男木島図書館理事長）



海を超える防災ネットワーク

未曾有の災害や紛争、万に備える自主防災と広域連携のカタチ

高橋博之（株式会社雨風太陽 代表取締役）
森谷哲（全国こども食堂支援センター・むすびえ ディレクター）
平野奈都（三宅島／三宅島地域体験工房 しまのね）
【進行】鯨本あつこ



働き方と人材確保

人口減・高齢化時代をサバイブする「地域の担い手」確保術

村上敬亮（デジタル庁統括官）
池田和法（アイランデクス株式会社 代表取締役）
荻野了（利島／利島村役場 産業観光課長）



持続可能なお金の循環

人間の経済で考える、社会性と経済性を兼ねた仕事のつくり方

田淵良敬（株式会社Zebras and Company 共同創業者 / 代表取締役）
大野佳祐（海士町／AMAホールディングス 代表取締役）
山下賢太（甌島／東シナ海の小さな島ブランド株式会社 代表取締役）
【進行】鯨本あつこ



共創事例 プレゼン

宮里哲（座間味島／座間味村 村長）
宮下雅行（大和リース株式会社 沖縄支店支店長）
辻大輔（大和リース株式会社 民間活力研究所）

未来のシマ共創会議2024 データ

参加者属性 国・省庁、市町村などの行政団体、大学または教育機関、民間企業、メディア・報道関係、自営業、非営利団体職員、政治家、学生など

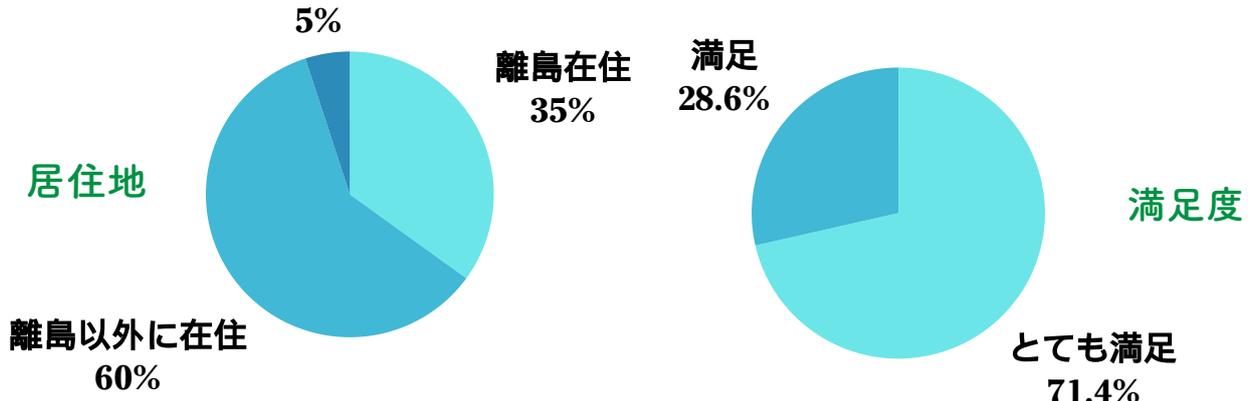
関係する島（参加者および登壇者）

礼文島、利尻島、奥尻島（北海道）／佐渡、粟島（新潟）／飛島（秋田）／大島、利島、神津島、新島、式根島、三宅島、八丈島、青ヶ島、小笠原諸島（東京）／隠岐諸島（島根）／伊吹島、豊島、小豆島、直島（香川）／大崎上島、佐木島（広島）／家島（兵庫）／答志島、菅島、神島、坂手島（三重）／佐久島、日間賀島、篠島（愛知）／笠岡諸島、田島、横島、走島（岡山）／大三島、忽那諸島（愛媛）／周防大島、六連島（山口）／柏島（高知）／小川島、松島（佐賀県）／高島、対馬、壱岐、宇久島、鹿島、小値賀島、斑島、中通島、若松島、奈留島、久賀島、福江島（長崎）／姫島（大分）／硫黄島、宝島、甌島列島、屋久島、種子島、奄美大島、喜界島、加計呂麻島、与路島、沖永良部島、徳之島、与論島（鹿児島）／久賀島（長崎県）／伊平屋島、渡嘉敷島、久米島、多良間島、渡名喜島、宮古島、石垣島、小浜島、西表島、与那国島（沖縄県）

印象に残ったテーマ

- 島の課題と可能性×必要なインフラ
- 島の課題と可能性×人手確保・関係人口
- 島の課題と可能性×資源の活用
- 島の課題と可能性×子育て教育環境
- 島の課題と可能性×防災

離島と離島以外の多拠点



名称	未来のシマ共創会議
会期	【本番】2024年11月14日（木）10-18時 【オンライン事前勉強会】8月下旬より毎週木曜日に全10回開催（アーカイブ視聴可） 8月29日／9月5日／9月12日／9月19日／9月26日／10月3日／10月10日／10月17日／10月24日／10月31日
会場	東京ミッドタウン八重洲カンファレンス 5階／オンライン（zoom）
主催	未来のシマ共創プロジェクト実行委員会（運営：認定NPO法人離島経済新聞社）
来場者数	現地参加：223名 オンライン参加：85名
協賛 協力 後援	【協賛】大和リース株式会社／株式会社エンデバー／アマタホールディングス株式会社／リファインホールディングス株式会社／認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ／AMAホールディングス株式会社／株式会社雨風太陽／一般社団法人ツギノバ 【物品協賛】株式会社宮古島の雪塩／農業生産法人株式会社西表島フルーツ／ごと株式会社／後藤緋扇貝／株式会社オイシーフーズ／有限会社八重泉酒造／株式会社奄美大島開運酒造／八丈興発株式会社／尾畑酒造株式会社／干場洋介（北海道奥尻島） 【後援】国土交通省、内閣府総合海洋政策推進事務局 【協力】環境省、POTLUCK YAESU

未来のシマ共創会議2024 参加者の声



岡田健一さん

事前勉強会も共創会議当日も、活発な意見交換が繰り広げられました。特に感じたのは、離島の話が生む「Linkage（つながり）」の力です。数年ぶりに再会した人とは昨日の続きを話すように親密に、初めて出会う人とは瞬時に「同志」になれる不思議な感覚。「シマ」という言葉が、私たち日本人の心を温かく結びつける魔法だと改めて気づきました。（アマタホールディングス株式会社 取締役兼CGO 岡田健一）



辻大輔さん

全国から来た仲間がトークセッションやワークショップに参加し、シマの課題や魅力について学び、話し合うことができました。そして、それぞれが持つ「シマあるある」も出るわ出るわ。それぞれは小さく遠いシマだけど、皆さんのシマに対する想いの大きさを知り、心の距離は顔を合わせてお話しすることでとても近くなったと思います。みんな、さらにシマが好きになりました。（大和リース株式会社 辻大輔）



河内佑真さん

「ミライの島を共につくろう」の掛け声で全国各地から集まった300人。一人ひとりが日本列島という大船団を未来に運ぶ漕ぎ手で、ただの乗客は一人もいない。そんな、未来への解像度が高まる場に居合わせたことを誇らしく思うとともに、自分もその一員であり続けたい！とワクワクが止まらない1日でした！（広島県庁職員 河内佑真）



田中良洋さん

島という共通点だけで、たくさんの人とつながることができました。「次は島で会いましょう」と合言葉通り、共創会議で知り合った人と島で再会することも学んでよかったですだけでなく、次のアクションにつながる場だったと思います。僕はまず、奄美で島の課題について勉強し合える場をつくりたい！（奄美大島 株式会社ステキカク代表 田中良洋）



内海凛香さん

島と自分の生き方を模索するなかで、共創会議に参加しました。全国から、それぞれのカタチで島と関わる方が集まっており、人と話せば話すほどに視野が広がっていきました。自身の想いや取り組みを話せて、無碍にせずに聞いてくれる方々のおかげで、自分にできることが少しははっきりした気がします。（桂島 大学院生 内海凛香）



大保健司さん

会場では皆さまのシマへの熱量に圧倒されました。さまざまな立場からシマを想う大勢の方々と繋がれたことは、これからの希望だと感じました。『島は危機感が共有しやすいから可能性がある』だからこそ、島と島が繋がることで『島だからこそできる』に変えていける様に徳之島でも模索していきたいです。（とくのしま伊仙まちづくり協同組合 事務局長 大保健司）



中川晃介さん

シマに対しての関わり方は様々あるけれど、課題や熱意は近いものがあり、同志と呼べる方たちと出会えました。「今度島に行くね」、「その課題を一緒に解決したい」といった言葉が会場内では聞こえ、未来のシマ共創会議から全国の離島で新たな動きが生まれる、そんなワクワクがあふれるイベントでした。（利島村役場 中川晃介）



島と親子をつなぐモニターツアー実施



豊かな子育て環境を求める親子

都市部を中心に、孤独な育児に悩む親子
自然や人の支え合いが豊かな環境を求める人等



子育て層を求める島々

学校存続、子育て教育環境の魅力化を推
進する地域、子育て移住を求める集落等

都市と離島、互いのニーズをマッチングするべく、甕島列島（鹿児島県薩摩川内市）と
答志島（三重県鳥羽市）にてシマ育モニターツアーを開催しました。

参加者の声

「里親さんの話を聞いて、どのような思いで受け入れているのか聞いたり、離島留学生と話を
したことで、より具体的に離島留学のイメージが湧きました。決して良いことばかりではない
かもしれないけれど、それを受け入れながら過ごしていくことを、この時期に体験することは
人として大きく成長できるだろうなと思いました」

「ただただ毎日毎時間毎秒が楽しく、幸せな時間を過ごしました。モニターということで、視
察が主旨のはずが、トラベラーとして純粋に楽しんだ結果、東京に帰ってみたら今すぐ島に戻
りたいと親子で話しています。結局島留学のことを日々調べている現状です」

「リトケイのおかげで島民の方々との距離感が近く、島の人達の優しさを感じることができま
した。自分たちだけだとよそ者として、なかなか交流できないことが多かったのが嬉しかった
です」

都市と離島、互いのニーズをマッチングするべく、甑島列島（鹿児島県薩摩川内市）と答志島（三重県鳥羽市）にてシマ育モニターツアーを開催しました。



東シナ海に浮かぶ甑島列島まではフェリーで約1時間。フェリーという非日常空間が子どもたちの心をほぐしてくれたのか、一気に距離を縮めながら島へ！



「民宿きくや」を営む塩釜さんご夫妻は、離島留学の里親でもあります。塩釜さんのご自宅でお話しを伺うと、離島留学生との向き合い方や、日常生活で大事にしていることなど、さまざまな角度から話を伺い、子どもたちの生活環境などを実際に見ることで島での暮らしぶりをより鮮明にイメージすることができました。



ここで子どもたちは釣りも体験。離島留学の里親さんの見守りのもと、釣った魚を自分でさばくことにも挑戦！



漁から帰ってきたばかりの船長が新鮮なタカエビを振る舞ってくれました。ツヤツヤに光っているタカエビを見た子どもたちの目も輝きます。みずみずしく甘い捕れたてのタカエビのおいしさは、忘れられない思い出に。



しらす漁も盛んな答志島。この時期はほわほわの釜揚げしらすも味わえるということで、できたてのしらすをたっぷりかけた贅沢ランチをいただきました。1日目は「魚は嫌い！」と言っていた子が、この日は「おいしい！」としらす丼をべろり。

甑島・答志島 モニターツアー 実施風景



ビーチコーミングも体験。カナコさんに漂着ごみが流れつく現状を教えてもらった後、プラスチック係やビン係などに分かれてごみを拾います。ごみ拾いとはいえ子どもたちは宝探しのように「あつたー！」と走りまわります。ごみを拾い終えたら、お気に入りの小石や貝殻を探す宝探しも始まりました。



答志島は漁業の島。たくさんの海女さんが活躍する島としても知られています。島に到着するとまずは「海女小屋」へ。現役の海女さんに、あわびやさざえを捕る方法や、安全を願う文化について教えてもらいました。



「地元の子どもたちと混ぜり合いドッチボールや鬼ごっこを楽しむ子どもたちの姿が。もしも離島留学に来たなら、子どもたちは毎日こんな風に遊ぶだろうなと想像できました。



集合写真をパチリ。子どもたちは帰りの船から「またくるねー！」と手を振り続けていました。温かな空気にどっぷりと浸かり、「また帰ってきたい」と思う場所が生まれた3日間となりました。



「離島医療会議」の企画運営を共同！

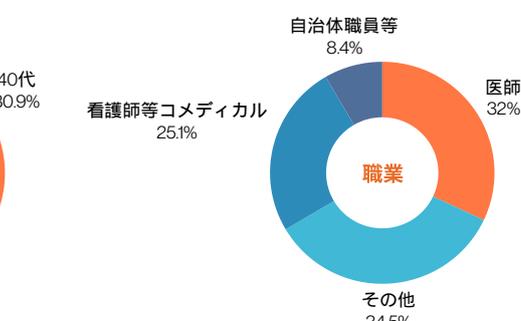
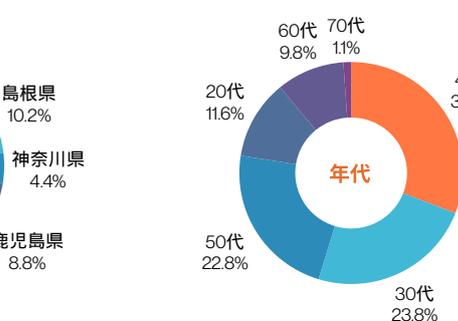
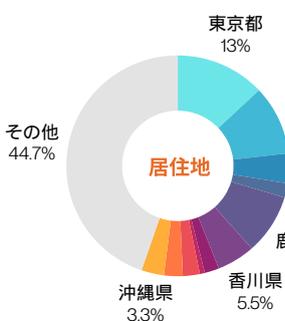


島根県海士町と連携し、離島医療に必要な人材やアイデアを集めるカンファレンスを実施。2024年度はオンライン～リアルで約600名が参加。関係省庁や離島行政担当者など重要政策に関するキーマンにも、島の声や医療従事者の声を届けることができました。

申込者
525名



33.5%が離島地域居住／66.5%が離島以外の居住者でした



参加者の声

「今の離島の医療について学ぶことは、すべての医療従事者にとって光を見いだせるきっかけになると感じています。ぜひ今後も、医療従事者の方に離島の現状を伝え、ともに考える機会を提供していただきたいと願ってやみません」

「あっという間の3時間でした。小豆島でパブリックビューイングが開催されていると聞きましたが、医療関係者であってもなくても住民が関心を持ってこの会議を視聴することで各島の医療について話せる時間が持てる、離島医療会議がそんな草の根運動的な役割を果たすきっかけになるのではないかと、そんな希望を感じました」

小豆島には4カ所のパブリックビューイング会場も

香川県の離島・小豆島では島の看護師の呼びかけにより「離島医療会議を見る会」が立ち上がり、島内4カ所のパブリックビューイング会場から多数の住民や医療従事者が参加しました。



離島経済新聞社の強みは、15年間で築き上げてきた全国の「島で生きる人」と「島を支えたい人」との信頼ネットワークです。このネットワークをフル活かし、島を支える活動を行いました。

「島の経営者」を支える学びの場を提供



稲森和夫氏が塾長となった「盛和塾」で学んだ屋久島出身で半導体専門商社PALTEKを創業した経営者・高橋忠仁氏のご寄付により、離島の経営者に向けて、経営哲学や実学を学ぶ場をつくることができました。

「島に住んでいる人」に向けたセミナー開催



「式根島と父島の観光事業者に聞く！経営課題を解決し観光の魅力も高める補助金活用術」（主催：東京観光財団 東京観光産業ワンストップ支援センター）東京11島から定員を上回る参加者が集まり、セミナー後には主催者へのお問い合わせも。（50～100名規模／媒体掲載＋SNS広告＋オンラインセミナー）

「島に興味関心のある層」に届くPRを実施



「【求人案内】人口300人の東京・利島で水産の未来をひらく地域おこし協力隊を大募集！」オンライン説明会（主催：利島村）。島への移住定住に興味関心のある層が説明会に参加。地域おこし協力隊の採用に貢献（10～30名規模／媒体掲載＋SNS広告＋オンライン説明会）

MESSAGE



「この島は宝島なんだ」 「けれどなかなか知られない」

これは2010年に広島県の大崎上島を訪れたクリエイター仲間の数人が、島のおじさんから聞いた言葉です。その言葉を反芻しながら、都市部のようにたくさんものはないけれど、心や身体に沁み入るような魅力に惹き込まれた仲間たちは、離島経済新聞社を創立。全国に417島（※）ある有人離島で暮らす人や縁故者、ファン、サポーターなど、ビジョンに共感する仲間を増やしなが、活動を広げてきました。

あれから15年が経ち、改めて気づいたことがあります。それはおじさんから聞いた通り、「島々は宝島」であること。そしてやはり「なかなか知ってもらえない」こと。島には400島あれば400通りの個性があり、島内に10のシマ（集落や自治会など）があればさらに10通りの個性があるほど多彩です。

一つひとつの島に暮らす人は数人から数万人。東西南北3,000キロメートルに点在する小さく、多様で、バラバラな島は、魅力があっても伝わりにくいものなのです。

情報社会では、インターネット上で情報が見つげにくいだけで「無い」と理解されてしまいます。AIが抽出した情報が間違いだらけでも、

島を知らない人々は、AIの情報を正としてしまいます。

見えにくいだけで、島々には現代社会が失いかけている「生きる力」が育めるフィールドが多分にあります。「島を想う人」も膨大に存在しています。リトケイはそんな可能性を、未来につないでいきたい。過疎が進む島も、その魅力や可能性が届くべき人に届けば、未来を変えることができるかと信じて、活動していきたい。

私たちが発行する『ritokei』や「未来のシマ共創会議」などの事業はすべて、島国に生きる人が「島の可能性」に気づき、島から持続可能な未来をつくるために行なっています。世界6位の広大な海の50%を、総人口の0.5%で支える島々の文化的営みを支えることは、この国の平和維持にもつながるものです。

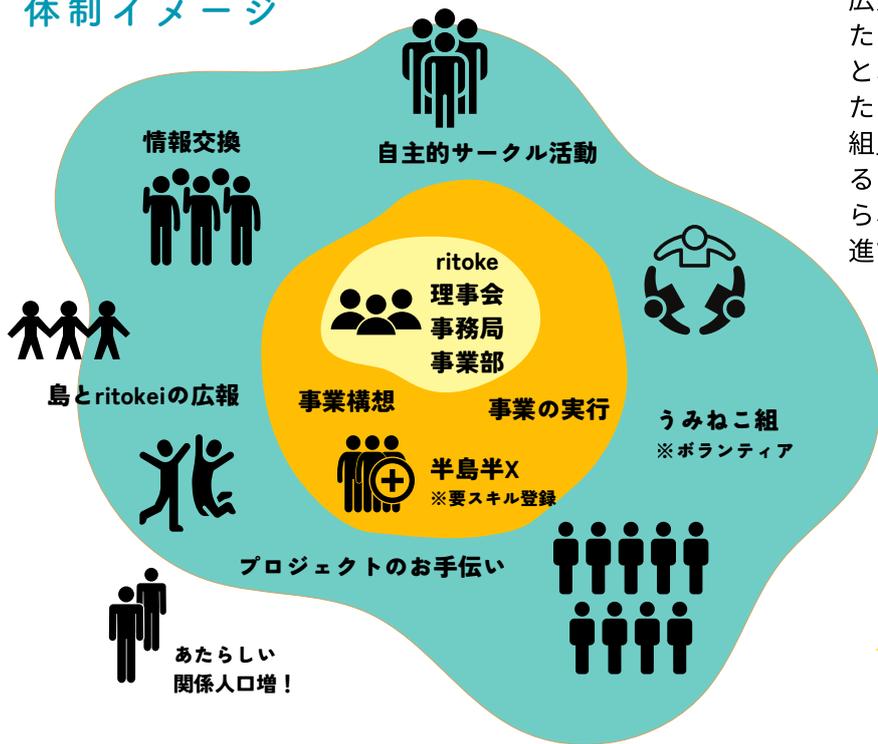
活動を支えてくださるサポーターの皆さまに、深い感謝を込めて。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

認定NPO法人離島経済新聞社
代表理事

鯨本 あつこ

活動体制

体制イメージ



広大な日本列島をフィールドに活動するため、役員・職員共に離島在住メンバーと本土メンバーが協働。「島の役に立ちたい」というボランティア「うみねこ組」やプロボノや業務委託として活躍する「半島半Xメンバー」とも協働しながら、多様な島で多様なプロジェクトを推進できる体制を整えています。

- 理事 | 林信義**
埼玉工業大学
情報社会学科教授
- アドバイザー**
望月洋佑
コンサルタント
日本政策金融公庫
農業経営アドバイザー
- 行政書士**
森健輔
森行政書士事務所
- 編集担当**
石原みどり
- 事務局**
宮本なみこ
- 事業担当**
松本一希
小豆島/利島二拠点

理事 | 上月温子
地域づくり支援機構認定
地域プランナー
奈良在住

常務理事 | 木下秀鷹
ごと株式会社代表
中小企業診断士
五島市在住

FD担当
多和田真也
九州在住

代表理事
鯨本あつこ
九州在住

編集部
ネルソン水嶋
沖永良部島在住

理事 | 勝真一郎
パローレ総合研究所代表
サイバー大学IT総合学部教授
奄美市在住

鈴木良壽さん
千葉在住のシティボーズ
環境パートナーシップ会議
ディレクター

吉屋寿則さん
愛媛・中島で離島の
暮らしを支えるケアを探究
介護施設勤務 (看護師)

設楽英広さん
大学から生成 AI を
社会実装する人
人工知能研究所職員

監事 | 鈴木庸介
石垣島在住
公認会計士・税理士

海野智洋さん
ただ、島が好き
東京の会社員
広告代理店勤務

田中良洋さん
奄美大島 (鹿児島) の
メディアクリエイター
株式会社ステキカク代表

内海凜香さん
桂島 (宮城県) の
祖母が大好き島2世
デザイナー・大学院生

蛭川万貴子さん
宮古島 (沖縄県) を
愛する人事のプロ
合同会社エストアップ代表

主要メンバーと うみねこ組・半島半Xメンバー

2024年度財務報告

<活動計算書>

I 経常利益		
受取会費	4,319,000	
受取寄付金	6,827,480	
事業収益	34,048,689	
その他収益	493,929	
経常収益計	45,689,098	
II 経常費用		
事業費	33,105,725	
管理費	15,187,715	
経常費用計	48,293,440	
当期経常増減額	-2,064,342	
III 経常外収益		
経常外収益計	0	
IV 経常外費用		
経常外費用計	8,491	
当期正味財産増減額	-2,612,833	
前期繰越正味財産額	-40,884,661	
次期繰越正味財産額	-43,632,768	

<貸借対照表>

I 資産の部		
流動資産	9,890,020	
固定資産	223,059	
資産合計	10,113,079	
II 負債の部		
流動負債	19,232,847	
固定負債	34,513,000	
負債合計	53,745,847	
III 正味財産の部		
正味財産の合計	-43,632,768	
負債及び正味財産合計	10,113,079	

数字は2025年3月31日時点。詳細は団体の公式ホームページ(www.ritokei.org)にて公開しています

2024年度の振り返り

コロナ禍以降、私たちは経営改善に取り組み続け、2025年2月にNPO法人の2%にあたる「認定NPO」を取得することができました。経済合理性を追求しづらい活動も多く、経営面はまだまだ非常に厳しい状況にあります。2024年度は中間支援組織としての実績を磨くことができ、パートナー企業や「うみねこ組」等の人財ネットワーク強化も叶いました。2025年度はこれまでの実績と信頼ネットワークを活かし、島と島国への貢献と経営安定化に注力します。10月に15周年を迎えるリトケイはいよいよこれからです。島国の価値を支える島の人々に敬意を表し、「島に愛のある関係人口」を増やし、つなぎ続けられるよう、リトケイをどうか応援ください。

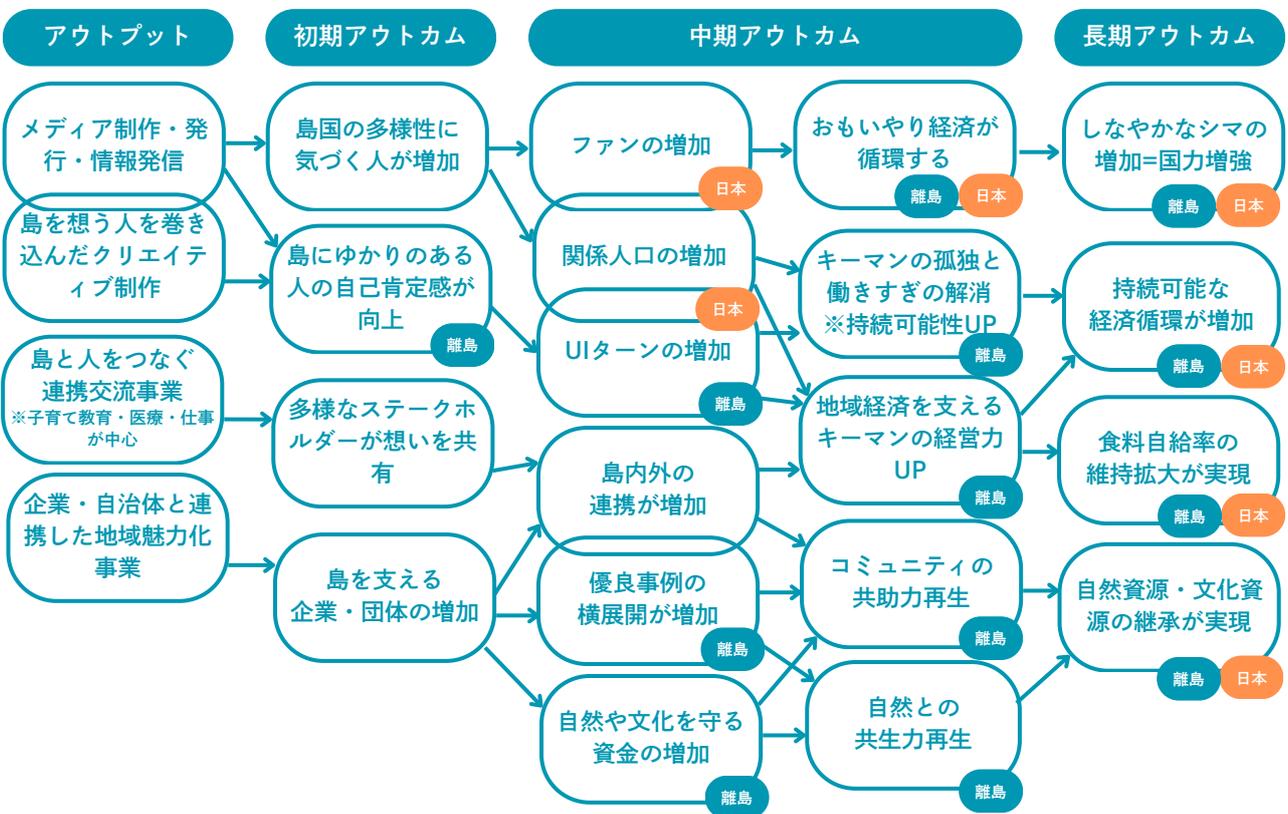
団体概要

団体名	特定非営利活動法人離島経済新聞社（認定NPO法人）
所在地	【東京本部】〒155-0033 東京都世田谷区代田2-36-15 BONUS TRUCK LOUNGE 【九州編集室・流通センター】〒877-0023 大分県日田市大字田島161-3 【沖永良部島サテライト】〒891-9214 鹿児島県大島郡知名町知名2168-1
設立	2014年9月（2010年10月22日に株式会社離島経済新聞社として創業）
TEL /E-mail	050-3528-8392（代表）／npo@ritokei.com
理事	鯨本あつこ（多和田温子）/ 木下秀鷹 / 勝眞一郎 / 林信義 / 上月温子
監事	鈴木陽介
スタッフ数	53人（常勤・非常勤・パート・プロボノおよび業務委託メンバー「半島半X」・ボランティアスタッフ「うみねこ組」含む） ※2025年8月時点

ritokey VISION



離島経済新聞社は「世界に愛される豊かなシマ国」を目指すべく各事業を通じて「つよく、たのしく、あたたかいシマとヒトがあふれる社会」づくりに貢献します。



この夢を支えてくださる
企業・行政・団体の皆さまに深く感謝を申し上げます

(一部ご紹介※敬称略)

島に寄り添い
明るい未来へ

DaiwaLease
大和リース株式会社
www.daiwalease.co.jp

株式会社 エンデバー

日本食研
日本食研ホールディングス株式会社

日本食研

AMITA
アマタホールディングス株式会社

和台
沖永良部島
鹿児島県知名町
(包括連携協定)

島への引越し・車を送るなら

Islandex
アイランドエクス株式会社

ASAKO
株式会社 朝日出版社
http://www.asakonet.co.jp

佐渡ホンダ販売株式会社

佐渡島のベーカリーカフェ
しまふうみ

SUN FRONTIER

REFINE HOLDINGS CO.,LTD.

利島
東京都利島村
(地域活性化企業人)

国土交通省スマートアイランドEXPO同時開催

未来のシマ 共創会議 2025

10/8-9

参加無料

Tokyo Innovation Base から
日本列島全土へオンライン配信



「未来のシマ共創会議2025」では、世界第6位の広さを誇る海洋面積の50%を守る有人離島を島国の宝として守り、島から持続可能な島国をつくれるよう、しなやかでミニマムなシマ（人と人が支え合うコミュニティ）の価値観と、先端技術とアイデアを融合させた「意志ある未来」をつくるための共創を創発します。

Talk Session 10/8

総合モデレーター



離島経済新聞社代表
鯨本あつこ

Online

17:00-19:00 特別Session

生き残れる島の防災と 関係人口共創会議

挨拶 | 荒木耕治（屋久島町長／全国離島振興協議会会長）
登壇 | 大山瑞久（内閣官房防災庁設置準備室 参事官補佐）
鈴木哲也（LINE ヤフー株式会社）
水本慎一郎（大和リース株式会社）
岩川健（屋久島 | 屋久島町総務課情報防災係長）
埜口裕之（十島村村議会議員）
今谷好志（奥尻町役場 地域政策課情報防災係長）
干場洋介（奥尻町住民課住民生活係長）ほか

10/9

Online
& 有楽町TIB

12:30-12:40 オープニングトーク | 浪越祐介様（国土交通省離島振興課課長）

12:40-14:00

Session1

つながりの 共創



沖縄ミチシルベ主宰
うむさんラボ代表取締役
比屋根隆



オープンイノベーションを推進
eiicon代表取締役
中村亜由子



かごしま島嶼ファンドを共創
island company.代表取締役
山下賢太

14:50-16:10

Session2

シマで守る 命と健康



与那国島の元総合診療医
エレコムヘルスケア代表
葉田甲太



シマ視点を医療に活かす
青ヶ島診療所所長
岩瀬翔



離島医療会議を共創
風と土と 代表取締役
阿部裕志

16:40-18:00

Session3

海の道を 維持するために



国土交通省
海軍局内航課 課長
叶 雅仁



青ヶ島航路・母島航路を運営
伊豆諸島開発代表取締役
山本忠和



自動航行で海のDX化を推進
エイトノット創業者
木村裕人



離島航路を現場から研究
九州産業大学准教授
行平真也

19:30-20:10

Session4

島には夢がある



「里山資本主義」著者
日本総合研究所首席研究員
藻谷浩介

共創ワークショップ



「島×テーマ」を掲げ、共創を創発するワークショップを開催。

『ritokei』を通じて募集した産官学民・島内外問わず、より良い未来をつくりたい参加者と「未来のシマ」を創造するアイデアを共創します。

「つながりの共創」(日本航空)
「防災ネットワーク」(大和リース)

開催日：2025年10月8日・9日(木)

会場：Tokyo Innovation Base (リアル会場)
+オンライン配信(8日はオンライン配信のみ)

参加費：無料※要登録(懇親会のみ有料)

内容：トークセッション/ワークショップ/ピッチ
交流スペース/懇親会

主催：認定NPO法人離島経済新聞社

協賛：大和リース株式会社、日本航空株式会社
株式会社キャンパスクリエイト、株式会社eiicon ほか

協力：LINEヤフー株式会社、離島医療会議 ほか

共創ピッチ



『ritokei』を通じて全国の離島地域より事前にエントリーした学生、スタートアップ事業者、役場職員等、ガリアルまたはオンラインで登壇。共創パートナーを募集するためのピッチを実施。SNSコミュニティと連動させ、その場でのつながりを誘発します。

交流スペース+懇親会



会場の一部で飲食を提供。全国の島々から集ったキーマンや、企業・行政担当者、スタートアップ、イノベーター同士のつながりを誘発します。

懇親会のみ有料 5000円(事前申込制)

同日・同会場で同時開催！
国土交通省 スマートアイランドEXPO

新技術を活用し島の課題を解決する民間企業や離島自治体が多数ブース出展

未来のシマ共創会議

離島経済新聞社は「未来のシマ共創会議」で
「島に愛のある関係人口プラス100万人」を目指しています

愛のある関係人口により
叶えられること

島への貢献やビジネスでの共創を「愛のある関係人口」が担うことで、総人口のわずか0.5%（本土と橋のかからない有人離島306島の総人口約60万人）が暮らす離島の営みを支える重要インフラの「不足」を補うことができます。

島の営みにかかせない

5大インフラ

1. 交通
2. 仕事
3. 住まい
4. 子育て教育
5. 医療介護



不足しがちな

4大課題

1. 人材不足
2. 財源不足
3. 情報不足
4. ノウハウ不足

愛のある関係人口になると
叶うこと

日本の離島地域には、日本人が失ってはいけない「足るを知る」価値観や、地球と共に生きるすべが残っています。資本主義経済の行き詰まりや、人間活動による地球環境へのダメージが深刻化する今、島とつながり、人々の価値観にふれることによって、持続可能なビジネス展開や、うわべだけではない社会貢献のヒント、一人ひとりのwell-beingを見直す機会を得ることができます。



島のエキスパートがバックアップする視察・研修 「足るを知る」課題解決先進地域にふれませんか？

離島の課題と可能性に寄り添い続け幅広いつながりを持つ認定NPO法人離島経済新聞社と、島旅企画・手配の経験豊富な南西旅行開発がタッグを組み、島での視察・研修をバックアップ。より現場に近い体験を通じて深い洞察を得られるよう、企画から実施まで伴走します。

ritokey
つくろう、島の未来

×

Island Agency
風は南西から

離島経済新聞社

南西旅行開発株式会社

- ・メディア事業を通じた島々のキーマンとのつながり・現地事情把握
- ・国の政策や地域での対応状況の理解
- ・イベント等の交流企画を通じた産官学民のマッチングやファシリテーション経験
- ・直接仕入れによる宿泊・二次交通機関との幅広いつながり
- ・悪天候などイレギュラー対応の豊富な経験
- ・メディア運営を通じた島々の生活文化・風土への理解とツアープログラムへの反映

こんなニーズに応えます



新規事業開発

日本国内のローカルを舞台に新規事業を立ち上げたいという企業・法人の方に、参照事例や協業の候補となる島への視察を企画・アレンジ・手配します



人材育成・研修

自然資源が豊富で一次産業の現場も多い離島では、座学では得られない持続可能性や環境再生に関わる身体知を経験を通じて体感・体得できます



エンゲージメント向上

島で出会い・対話する、自分の日常とは異なる環境で暮らし働く人々を鏡として、従業員が自らのパーパスを問い直し、仕事への向き合い方を変容させる契機とします



チームビルディング

トレッキングや魚さばきなど山も川も海もある島の豊かな自然でのアウトドア活動や、伝統工芸・芸能鑑賞といった共通の体験を重ねることを通じて、参加者間の相互理解を促し結束力を向上させます



CSR活動

世界自然遺産にも登録されるような貴重な自然環境のある島や他をフィールドに、参加者が自ら手を動かし、自然保護や環境回復に直接携わる活動をコーディネートします

地域経済振興の専門家
プロのファシリテーター
現地のキーマンなど
ご希望の専門家が講師に！



島での体験例



海洋プラスチック対策

2050年には魚より多くなると予測されている海洋プラスチックゴミ。周囲を海に囲まれた島では、その漂着の現場や回収・アップサイクルの取り組みに触られます。



サンゴ礁再生

海の生き物の大切な棲み処になっているサンゴ礁は、温暖化にともなう海水温の上昇と海水の酸性化により、急速にその生息域を減らしています。西太平洋でサンゴ礁の北限にあたる南西諸島では、各地でサンゴ礁を回復させる取り組みが進められています。



里山・里海づくり

本来自然と人は別々に切り離された存在ではなく、互いに関わり合ってきました。島にはそうした習わしや現場がまだなんとか残っており、藻場が減ってしまった海で魚の産卵場所となる木を沈めたり藻を植え直すなど、人と自然の関わり合いを引継いでいこうという取り組みが進められています。事業にもネイチャーポジティブが求められる今、人の営みも自然の一部であることを実感できる機会になります。



現地キーマンとの対話・食事会

島とのつながりが強いからこそ、通り一遍の研修企業・旅行会社ではつなぐことができない、現地キーマンとの対話や食事会の機会をセッティングします。交流を通じより深い気付きと洞察を得られます。

実施までの流れ

- 1 お問い合わせ お気軽にお問い合わせください。
- 2 ヒアリング 具体的な視察目的・ご希望の日程・訪問先・ご希望の手配内容をお伺いします。
- 3 視察先のご提案・お見積り お伺いした情報をもとに、ご希望に沿った視察先を提案いたします。行程が決まりましたら、お見積りいたします。
- 4 交通・宿泊・視察先の手配 内容が確定しましたら、正式に各項目のご手配を進めさせていただきます。
- 5 事前研修（オンライン） 現地での学びを深められるようオンラインにてオリエンテーションを行います。
- 6 ご旅行に必要な書類発送 2週間前から10日前にチケット類や出発案内をお送りいたします。
- 7 ご出発 視察・研修中もイレギュラー発生に備え、ご帰着までサポートいたします。

費用の目安

研修企画・コーディネート費 77,000円~/1名
 旅費（交通費・宿泊費・飲食代） 要見積
 指定の専門家同行 150,000円~/日

与論島（鹿児島）2泊3日の研修 羽田発10名様をご参加の場合

研修企画・コーディネート費 77万円
 旅費（交通費・宿泊費・飲食代） 80万円
 指定の専門家同行 45万円
 合計 202万円（税込）
 ひとりあたり 20.2万円（税込）

島の視察・研修旅行企画実施
 南西旅行開発株式会社／東京都知事登録第2種-2824号
 〒150-0002東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル2階
 総合旅行業務取扱管理者 内山貴之
 営業日・営業時間：月～金 10:00～17:30 土 10:00～12:30 日曜・祝日・年末年始 休業

まずはお気軽にお問い合わせください！